

ソーシャルワイヤー株式会社 2021年3月期1Q決算説明資料

2020年8月5日

<本資料の取り扱いについて>

本資料に記載されている契約や見通し、戦略などは本書面の作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

当社が事業環境の説明を行う上で、参考となると考える情報を掲載しております。掲載データについては、調査方法や調査時期により結果が異なる可能性があります。 本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。本資料・データの無断転用はご遠慮ください。

IRに関するお問い合わせ 株主・投資家の皆様へのメッセージ https://www.socialwire.net/contact

https://www.socialwire.net/ir/messagelist



売上高 過去最高 売上成長率 高水準を維持



連結業績

連結業績ハイライト



全 体

セ

グ

X

連結業績

売上高 営業利益 経常利益 当期純利益※ 1,094百万円(前期比 124.9%) 36百万円(前期比 36.4%) 26百万円(前期比 28.9%)

53百万円(前期比 98.2%)

デジタルPR 事業

売上高

495百万円(前期比 110.7%)

インフルエンサーPR案件数 94件(前期比 85.4%)

クリッピング案件数 3,331件 (前期比 104.3%)

リリース配信数(従量/月額) 7,282件(前期比 116.3%)

シェアオフィス 事業

売上高

稼働席累計(国内) 稼働席累計(海外)

598百万円(前期比 139.8%)

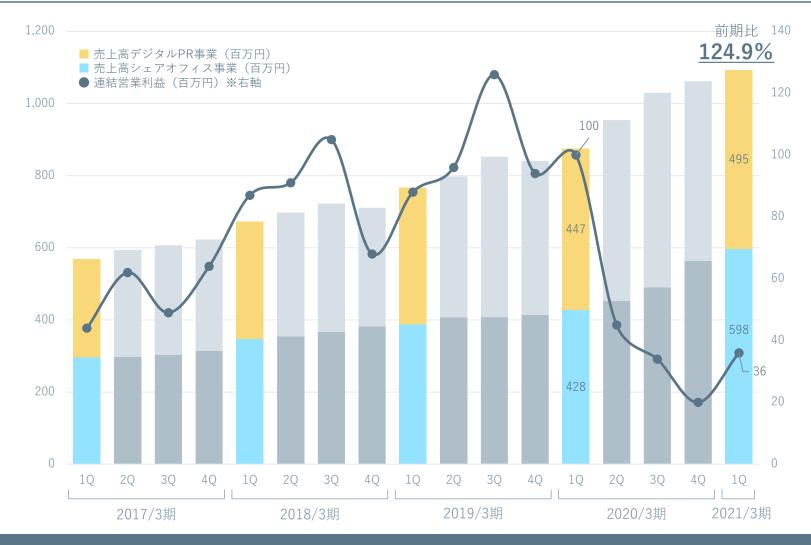
5,542席(前期比 143.7%)

2,856席(前期比 110.6%)

^{※ 「}親会社株主に帰属する当期純利益」を示します。

業績ハイライト (四半期推移)





・売上高

過去最高で推移

・営業利益

- デジタルPRの販売人員の先行投資要因
- ※但し、両事業ともコロナ禍による伸び悩み要因が含まれる

売上高前期比(四半期推移)



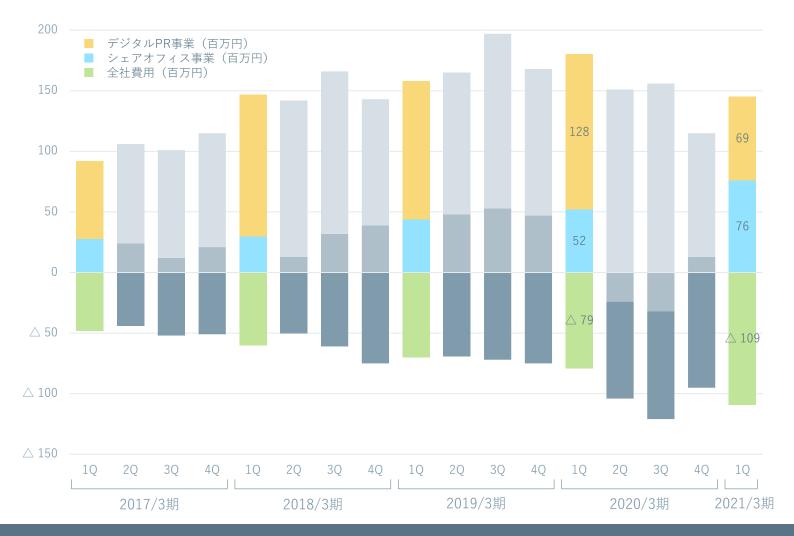


・デジタルPR

- 成長率の『鈍化』
- ・シェアオフィス
- 成長率の『加速』
- ※但し、両事業ともコロナ禍による伸び悩み要因が含まれる

セグメント利益(四半期推移)





- ・デジタルPR 販売人員の先行投資要因
- ・シェアオフィス 大型拠点設営から1年経過でひとまず増益水準まで到達※但し、両事業ともコロナ禍による伸び悩み要因が含まれる



デジタルPR事業



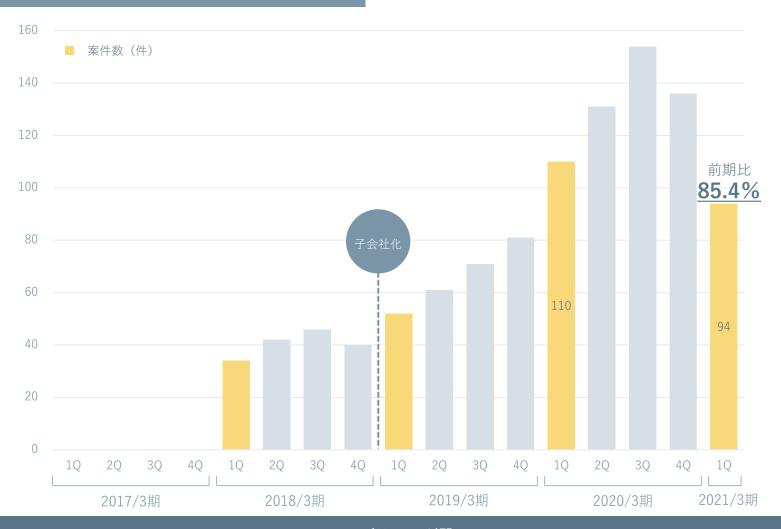
売上高/セグメント利益



- ・売上高
- コロナ禍による伸び悩み
- ・セグメント利益
- 販売人員の先行投資要因



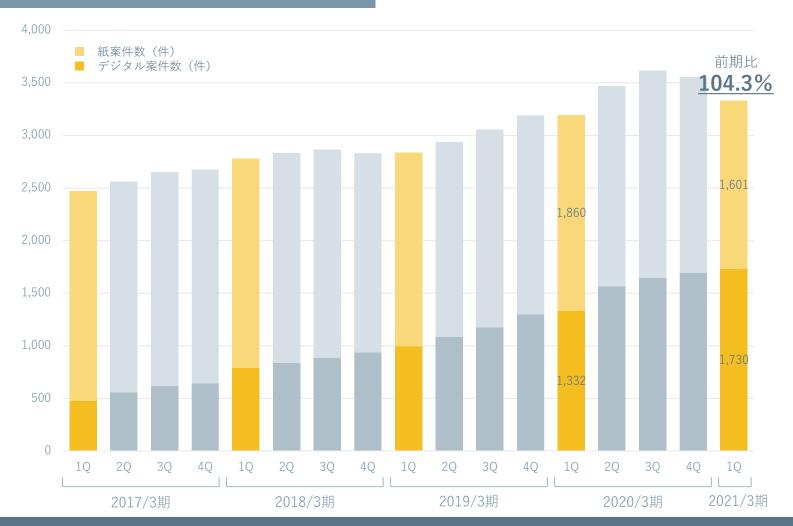
インフルエンサーPR



コロナ禍の影響 イベント消失等による『案件数』の『大幅な減少』



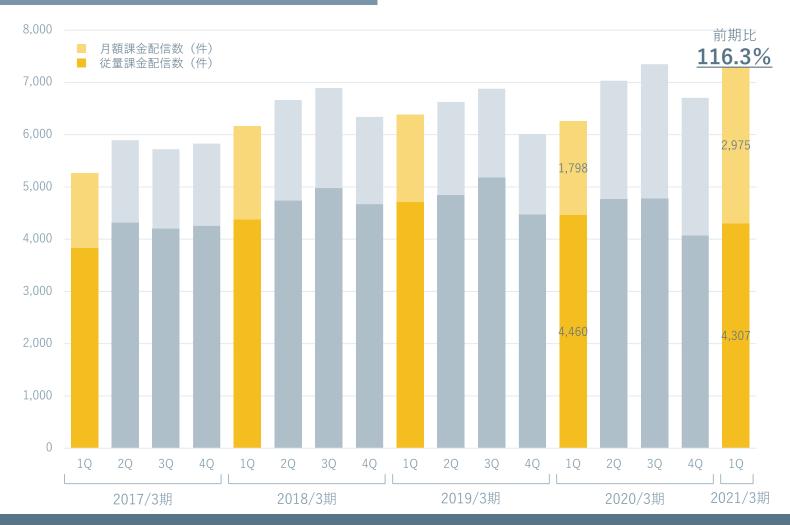
クリッピングサービス



デジタル案件が牽引 イベント等消失により紙案件のクリップ数は『減少』



プレスリリース配信サービス①



(販売人員増強の効果)月額課金プランが大幅に増加進行中 停滞していたリリース配信ボリュームが増加傾向に転じはじめる



プレスリリース配信サービス②

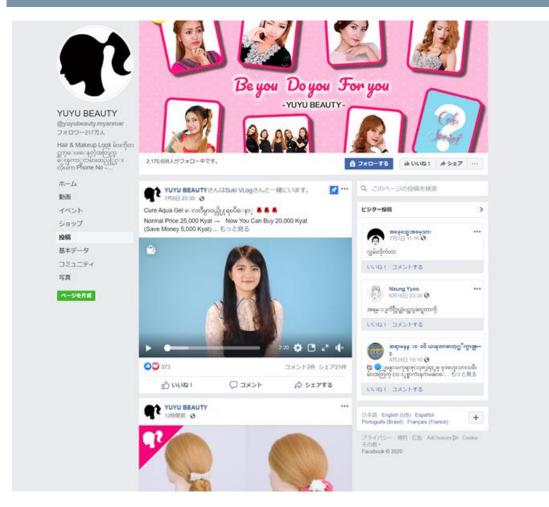


販売人員増強による大幅な利用者数の増加推進

デジタルPR事業 (トピックス)



ミャンマー最大の美容メディア「YUYU BEAUTY」事業を取得



YUYU BEAUTY

ファッション・メイク・コスメ・ ヘアスタイル等美容動画

- ✓ 美容ノウハウ動画コンテンツ4,000投稿以上
- ✓ Facebookページは 200万フォロワー超 (ターゲット人口の25%を カバー)
- ✓ 累計動画再生回数は 1億9千万回

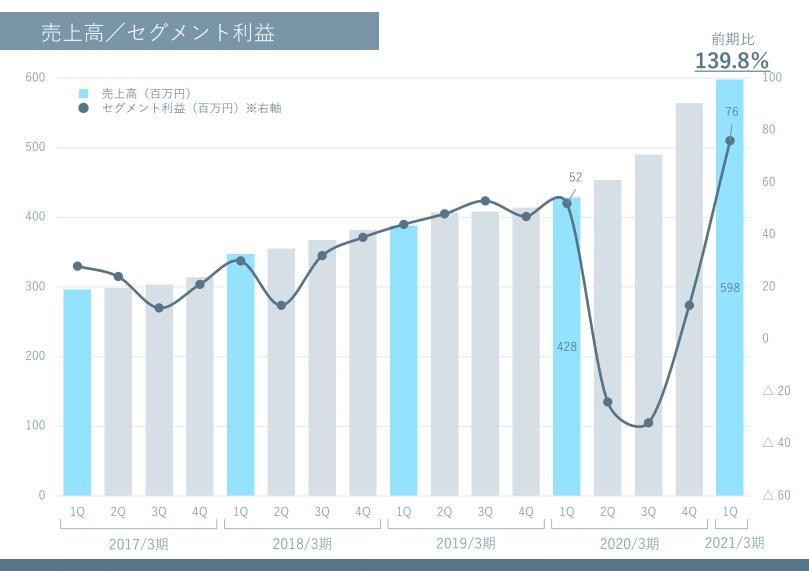
アジアにおけるインフルエンサーPR事業の足がかりに



シェアオフィス事業

シェアオフィス事業 (四半期推移)





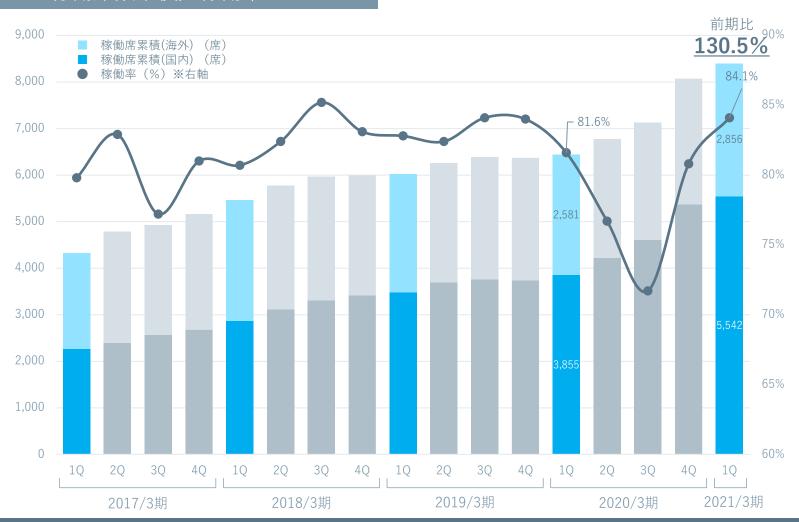
・売上高

- 過去最高を更新
- ・セグメント利益
- 大型拠点設営から1年経過でひとまず増益水準まで到達

シェアオフィス事業 (四半期推移)



稼働席数累積/稼働率



国内稼働席が堅調に推移し、稼働率が84%へ ※但し、コロナ禍の影響で伸び率は鈍化



連結財務諸表

2021年 3 月期 連結損益計算書



	2020/3期		2021/3期		
	1Q (百万円)	通期 (百万円)	1Q (百万円)	前年同期比	
売上高	876	3,924	1,094	124.9%	
売上総利益	444	1,749	506	113.9%	
営業利益 (営業利益率)	100 (11.4%)	201 (5.1%)	36 (3.3%)	36.4% (△8.1ポイント)	
経常利益	92	159	26	28.9%	
親会社株主に帰属する当期純利益	54	72	53	98.2%	
EBITDA*	195	689	171	87.6%	

[※] EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費 (EBITDAについてはレビューを受けておりません。)

2021年 3 月期 連結貸借対照表



2020/3期末		2021/3期 1Q末					
	金額(百万円)	構成比	金額(百万円)	構成比	前期末比	主たる変動要因	
流動資産	1,467	29.3	1,552	31.2	105.8	為替換算の影響により使用権資産(固定資	
固定資産	3,543	70.7	3,414	68.7	96.3	産)が減少	
資産合計	5,010	100.0	4,967	100.0	99.1		
流動負債	1,674	33.4	1,763	35.5	105.3	短期借入実施により流動負債増加 ファース	
固定負債	2,017	40.3	1,871	37.6	92.7	• リース債務(流動負債を含む)の返済等により減少	
負債合計	3,692	73.7	3,635	73.1	98.4		
株主資本	1,287	25.7	1,308	26.3	101.6		
(自己株式)	(△45)	(△0.9)	(△45)	(△0.9)	_		
非支配株主持分	19	0.4	19	0.3	100.1		
その他	12	0.2	3	0.0	31.4		
純資産合計	1,318	26.3	1,331	26.8	100.9		
負債・純資産合計	5,010	100.0	4,967	100.0	99.1		

[※]自己株式金額は株主資本金額に含まれております。



コロナ禍の影響

コロナ禍影響の実績・見通しと施策



主要サービス	1Q影響	2Q影響見通し	運営方針	
デジタルPR事業				
インフルエンサーPR	▶ 『 大幅減少 』 主にイベント/観光案件	▶『段階的回復』 徐々に復調の兆し		
クリッピング	▶『 微減 』 廃刊で紙案件の単価減少	▶ 『 回復 』 徐々に復調の兆し	✓ 増員した販売人員を全 サービス横断的に活用✓ 『全サービスの成長』ス	
プレスリリース配信	▶ 『減少から急回復』 月額プランが牽引	▶『成長』 従量/月額両プランともに 成長軌道へ	テイタス軌道を目指す	
シェアオフィス事業				
シェアオフィス	▶『 鈍化 』 新規獲得ペースの鈍化 解約影響は軽微	▶『停滞』 国内の稼働席はしばらく横ばい見通し 海外の稼働席は国において 状況が様々だが稼働席数減 少も見込む	✓ 分散オフィスターゲット への訴求強化✓ 企業内個人へのリモート メンバーシップサービス を推進強化	
クラウド翻訳	▶『軽微』	▶『軽微/停滞』		



2021年3月期業績予想

2021年3月期業績·配当予想



■ 前提となる背景

コロナ禍の影響期間を『2020年9月まで持続すると仮定した前提』として算定しております。

	2020/3期	2021/3期	
	通期 (百万円)	通期予想 (百万円)	前年同期比
売上高	3,924	4,650~5,000	118.4~127.3%
営業利益	201	220~420	109.3~208.7%
経常利益	159	180~380	113.0~238.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	72	90~230	123.6~315.9%

		2020/3期	2021/3期
1株当たり 配当金	中間	6円00銭	6 円50銭
	期末	6円00銭	6 円50銭
	年間	12円00銭	13円00銭 (+1円00銭)
配当金総額 (年間)		71百万円	_

